

## 令和3年度 学校経営方針

令和3年4月1日  
大分大学教育学部附属小学校長 時松哲也

### 0. 教育の目的

人格の完成を目指す (教育基本法第1条)

### 1. 附属小学校の使命

#### (1) 地域教育への貢献

地域の先進的・先導的なモデル校として、大分県教育委員会と連携して実践し、情報を発信する。

#### (2) 教育実習生等への指導

地域の教育課題を踏まえた教育実習を計画し、直接その指導に当たる。

#### (3) 大学への協力

教職大学院及び学部教員と協力し、教育理論と実践の往還を通じた実証的な研究を行う。

### 2. 学校の教育目標

#### **未来へ向かって高い志を持ち、人や社会と豊かに関わり、自己を磨き高め合う子どもの育成 ～グローバルリーダー(Think globally、act locally)の育成～**

【学びに向かう力・人間性】

○グローバルな視点を持ち社会に貢献できる人間性の涵養

【思考力・判断力・表現力】

○未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成

【知識・技能】

○生きて働く知識・技能の習得

### 3. 重点目標(安心・活力・発展)

○より高い目標を立て、自己を磨き続けようとするとともに、社会に貢献しようとする力の育成

・安全・安心な学校

・公共の意識の醸成

○知識・技能を場面や状況・目的と適切につなげる力の育成

・外国語科、総合的な学習の時間の充実

○活用できる知識・技能の確実な習得

・新大分スタンダードを踏まえた授業改善

○チーム学校による組織的な取組の具現化

・主幹教諭を中心とした主任制度の充実(取組を支える段構えで分厚い組織・体制の構築)

○働き方改革の推進

・働き方改革による自己研鑽への希求と感性の琢磨。及び、更なる行事等の精選と見直し

#### 4. 重点的取組

- (1) 学びに向かう力の育成とすべての教育活動を下支えする、安全・安心な学校の実現
  - ①公共の意識の醸成と徹底した生活指導の実践
    - ・公で通用するための基礎を培う3つの取組(縦割りチームによる無言清掃、履き物そろえ、挨拶)
    - ・主体的で積極的な聴き手の育成と多様性を受け入れ共感的人間関係を醸成するフリートーク、褒め言葉のシャワー、成長ノート等
  - ②予防的・積極的生徒指導の強化
    - ・子どもからのサインをキャッチ、休み時間の観察等
    - ・SC、SSW等専門スタッフとの連携
- (2) 全学級で取り組み附属小の活力でもある外国語教育の一層の充実と地域への還流
- (3) 地域と繋がる総合的な学習の時間を核に、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等を鍛えるカリキュラムの開発・実践・発信
- (4) 持続的・発展的な授業改善
  - ①指導教諭・学年主任等の授業観察や日常的な授業公開を通じた着実な授業力の向上(切磋琢磨)
  - ②新大分スタンダードを具現化した授業観察シートの活用(見直しや改善も含めて)、並びに大学と連携した県教育課程研への取組と地域や教育実習への還流
  - ③一人一台端末を効果的に活用した授業による主体的・対話的で深い学びの実現
  - ④教科担任制の推進による学習指導と生徒指導の充実
  - ⑤自学自習ができる自律的学習集団及び「自立した学習者」の育成
- (5) 使命や要請に応えることのできる自律的学校組織の構築
  - ①主幹教諭を中心とした主任制度や組織的な対応の充実(ミドルリーダーの育成、全教職員の学校経営への参画意識)
  - ②連相の徹底…決して後回しにしない。特に相談は自分の案を持って積極的に。
  - ③危機管理能力の強化
    - ・教頭と防災コーディネーター等各種担当者との連携のもと初動を誤らない危機対応。全教職員による高い当事者意識
    - ・チーム支援を活用した組織的ないじめ・不登校対応
    - ・教職員一人ひとりが人権意識を高め、体罰・ハラスメント等防止に向けて相互の言葉かけとさらなる意識の向上
  - ④接遇マナーアップ…一人ひとりが附属小の看板を背負っている。多忙なとき、余裕のないときこそ大人(社会人)としての対応ができるように。すべての方々への率先した言葉かけと挨拶を。
- (6) 量的な価値から質的な価値の追求へ意識転換
  - ①学校における最大の働き方改革は生活指導の徹底
  - ②学校でしかできないこと・優先順位等を意識した業務を行い、更なる効率化や重点化に取り組む。
  - ③自己研鑽に充てる時間や機会をつくり出し、一人ひとりの豊かな感性を授業構想等に反映させる。